

平成27年度事務事業評価シート		該当事業(評価対象外事業は基本情報のみ記載)		
		一般事務	公共建設事業	評価対象外事業
事務事業名	敬老事業			
予算科目	3 款 1 項 9 目			
総合計画での位置付け	福祉の向上と保健・医療の充実～やすらぎとぬくもりのまちづくり～ 高齢者対策の充実			
所管課情報	担当課:	長寿介護課	電話番号(内線):	544
記入者情報	所属長:	武智 茂記	担当責任者:	福積 秀子
事業の性格	内部管理事務			
実施期間	【開始年度】平成 17 年度 【開始年度】設定なし			
事業の対象	伊予市在住の75歳以上の高齢者			
根拠法令等	伊予市敬老会実施事業費補助金交付要綱ほか			
事業の目的	地域社会の進展に寄与し豊富な知識と経験を有する高齢者を地域をあげて慶祝し、豊かで生きがいのある老後の生活を祈念するため。また、市民一人ひとりが高齢者を支えるという自覚を得る機会と捉え、社会福祉の基本となる住民意識の維持向上を目指す。			
事業の内容	・伊予市内の広報区(広報委員区)、高齢者福祉施設その他の市長が認める団体が実施する敬老会実施事業に要する経費に対する補助(対象地域(施設)に在住の75歳以上の高齢者数×2,000円/人)・米寿(数え88歳)該当者への記念品(5,000円相当品)贈呈・数え100歳の方への祝金(50,000円)及び祝状贈呈・実施団体への敬老事業に対する理解促進と協力要請			
改善策の具体的な取り組み(当初)	「敬老会」という形にとらわれずに敬老意識の醸成につながる事業を展開するために、地域の様々な行事で高齢者を敬う要素を取り入れられるよう、補助金の支給方法を工夫する。			
改善策の具体的な取り組み	なし			

事業費及び財源内訳					
項目		26年度決算	27年度予算	9月末の執行状況	27年度決算
事業費	直接事業費	13,622	14,147	8,004	14,103
	人件費	3,579	3,619	181	3,619
	合計	0	17,766	8,185	17,722
人件費内訳	人工数	0.45	0.45	0.02	0.45
	人件費単価	7,954	8,042	8,042	8,042
	補助事業人件費	0	0	0	0
	人件費	3,579	3,618	180	3,618
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
	一般財源	17,201	17,766	8,185	17,722

事業活動の実績(活動指標)					
項目	単位	26年度実績	27年度予定	9月末の実績	27年度実績
広報委員区数	地区	257	257	257	257
敬老会未実施地区数	地区	4	4	3	3
敬老会参加率(参加者/対象者)	%	46.2	50	45.1	45.7

向こう5年間の直接事業費の推移						
年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	5年間の実績
	17,300	17,990	18,700	19,000	19,000	91,990

成果指標				
成果指標	敬老会未実施の地域を無くし、市全体での敬老会参加率を50%以上にする。			
指標設定の考え方	昨年度、敬老会未実施の地域が実施し参加率が100%(実績として小規模地域の参加率は高いため)だった場合、参加率が50%を超えるため。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	
目標	50	50	50	0
実績	46.2	45.7	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	高齢者を敬う行事が各地域の特色を生かし、様々な機会や行事で開催されるよう、工夫する。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	高齢者を敬うことは大切なことであるが、敬老会への参加率が年々低下しており敬老会のあり方自体を検討する時期にきているのではないかと考える。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	敬老会への出席率が低下してきており、事業のあり方を見直すため、行政評価委員会に諮る。

行政評価委員会の答申

<p>外部評価 (行政評価委員会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・老人が増えているのに、参加者が減っているのは魅力がないからか。飲食と芸能が主の敬老会ではなく、貢献された方を表彰するなど、生きがいのある内容やアトラクションを入れてはどうか。 ・人数分の補助をしている割に参加者は半分しかない。参加者にはありがたいが不公平な感じがする。お金の出し方を検討しないとイケない。 ・参加率は手っ取り早い指標だが、あまり意味がない。行きたくても行けない人はたくさんいる。市が主催する敬老事業であるなら、全ての人に恩恵が行き渡るようにすべきだと思う。 ・地区によりばらつきがある。参加率を上げるならアンケート等による分析を行い、フィードバックしてはどうか。 ・参加率の低さは、年寄りの声を反映していないイベントが多いからだと思う。6千人のお祝いより米寿や100歳などみんながお祝いしてもよいと納得の得られるものに傾斜配分をして、重点化すべきだと思う。
---------------------------	---

経営者会議の最終判断

<p>事業の方向性</p>	<p>現状のまま継続する。</p>
<p>意見、課題</p>	